

日立が情報システム運用管理の国際的な標準化団体 DMTF のボードメンバーに参画

情報システムの運用管理インターフェース標準化活動を積極的に推進

日立製作所 情報・通信グループ(グループ長&CEO:古川 一夫、以下 日立)は、情報システム運用管理のためのハードウェア、ソフトウェアなどのインターフェース標準化活動を行う国際的な業界団体 DMTF(Distributed Management Task Force, Inc.)のボードメンバーに選出され、2005年4月1日から2年間の任期で参画します。今回、DMTF における運営方針の決定権限を持つボードメンバーに参画することで、オープン環境におけるシステム運用管理インターフェースの標準化に向け、DMTF において積極的に提言していきます。

DMTF は、さまざまな情報システムの構成要素を統一的に運用・管理するためのインターフェース標準の策定を目的とした業界団体です。参加企業は、全世界から 100 社を越え、延べ 3,000 人を越える技術者が 16 のワーキンググループで標準策定のための技術検討を進めています。

日立はこれまで、オープン環境における統合的なシステム運用管理製品である「JP1」のほか、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」や、ディスクアレイサブシステム「SANRISE」などを幅広く提供してきており、これらの製品と他社製品とを組み合わせた情報システムの構築及び運用管理について豊富なノウハウを持っています。

今回、DMTF の活動方針を決定する権限をもつボードメンバーの一員となったことで、日立の持つ運用管理製品の開発やシステム構築・運用などのノウハウを DMTF の標準化活動において積極的に提言できる立場となりました。今後は、各種の提言を通じて情報システム運用管理の相互接続性の向上に貢献していくとともに、DMTF での活動の成果を各種の製品にフィードバックしていく方針です。

なお、今回の日立の DMTF ボードメンバー参画にあたり、DMTF のチェアマンであるジム・ターナー氏は次のように述べています。

「DMTF は、今回日立がボードメンバーに選出されたことを歓迎します。日立の参画により、DMTF におけるボードメンバーのリーダーシップがさらに強固なものになると確信しています。大規模なインターネット環境におけるシステム運用管理の標準仕様策定と、それに伴う運用管理技術の前進のために、日立と一緒に仕事をすることを楽しみにしています。」

DMTF について

DMTF が策定する標準は、特定のプラットフォームや特定ベンダーの技術に依存せずに、サーバー、ストレージ、ネットワーク、ソフトウェアなどの様々な情報システムの構成要素を連携させ、制御するための共通的な管理基盤を提供します。DMTF がこれまでに策定した標準には、システムの構成要素間で管理情報をやりとりする際の共通モデルを提供する CIM(Common Information Model)、PC やサーバなどの構成要素を管理するための DMI(Desktop Management Interface)、インターネットの標準技術を利用して分散コンピューティング環境を管理するための技術である WBEM(Web-Based Enterprise Management)などがあります。

DMTF は、標準採択の投票権をもち標準化検討の主要メンバーであるリーダーシップメンバー、検討に参画する参加メンバー、DMTF の技術情報を参照できるモニタリングメンバー、及び、他の標準化団体や研究組織・大学などで検討に参画できるパートナーで構成されており、DMTF の意思決定組織であるボードは、リーダーシップメンバーの中から選挙によって選出された 14 社の代表者で構成され、DMTF の運営方針を決める重要な任務を担っています。

他社登録商標等に関する表示

・記載の会社名および製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

取扱事業部・照会先

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ ソフトウェア事業部

ネットワークソフト本部 次世代ミドルセンタ 【担当:吉野】

〒244-8555 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 5030 番地

電話:045 - 862 - 8490(ダイヤルイン)

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
